

技術士会県支部CPD講演

鶴田ダム再開発の効果学ぶ

日本技術士会九州本部県支部(井内祥人支部長)は10日、鹿児島市のカクイックス交流センターで第43回CPD講演会を行った。会員ら約50人が参加。鶴田ダム再開発の効果や

インフラツーリズム、増電の試行等について学んだ。

鶴田ダムに関する最近の話題として、九州地方整備局鶴田ダム管理所の上村雅文所長が講話。

効果を発信しているほか、二酸化炭素を排出しない水力発電の強みについて説明。

講演から知見を広げ、日ごろの業務に生かしてほしい」と話した。



会員ら約50人が上村所長の解説に聞き入った。鹿児島市のカクイックス交流センター

2006年7月の記録的な豪雨により流域が甚大な被害を受けたことで日本最大規模の再開発に着手。激特事業と合わせ宮之城地区でおおむね3mの水位低下効果を発現したことに触れた。

このほか、「IoTを支えるネットワークを考える」と題し第一工科大学の馬場伸一教授が「主要なネットワーク技術がサポートを本格化させる。今後は、ネットワークの最適化が重要」と解説した。

井内支部長は「CPD講演会は今年度、4回開催される。興味深

また、インフラツーリズムにより、ダムの必要性や